男子６６ｋｇ級

準決勝戦第１試合

３浅野　大輔　　⊖（送足払）　　３樋口　真広
（自衛隊体育学校）　　（パーク２４）

前年のチャンピオン浅野は順当に勝利を収め準決勝戦に駒を進め、対する本大会出場２度目の新鋭樋口は立技、寝技共に冴えオール一本勝で準決勝戦進出。

浅野左組み、樋口右組みの両者、出足払の応酬から試合が始まる。１分３秒、浅野に押されて場外に出た樋口に指導１が与えられる。その後もケンカ組手ながら互いに組み合う両者は互いに足技を繰り出す。

中盤を過ぎると今度は両者背負投の応酬に転じる。こうして迎えた２分４９秒、浅野は樋口が踏み込む右足に左足を送る鮮やかな送足払で横転させて技ありを奪う。

リードを奪われた樋口は反撃を試みるが、浅野に巧みに時間を浪費させられ時間。浅野が決勝戦進出。

準決勝戦第２試合

２伊藤　健太郎　　小内刈　　○　３青木　勇介
（自衛隊体育学校）　　（パーク２４）

伊藤は初戦の鳥入（近畿通関）戦での指導２の優勢勝以降は一本勝。対する青木は初戦からオール一本勝、両者破竹の勢いで準決勝戦に進出。

左組み同士の両者の対戦は、試合開始早々から足技を中心にした攻めの青木の優勢な展開。青木は幾度も強引な大外刈を仕掛ける。その後の １ 分４秒、青木は意表を衝いて捨身技の小内刈から巻込めば、これが見事に決まり、一本。

決勝戦

３浅野　大輔　　（裏投）　　⊖　３青木　勇介
（自衛隊体育学校）

開始早々、互いに足技、背負投等技の応酬となるも、決め手を欠き引分ける。

延長戦に入っても、激しい技の攻防が続く。延長戦も引分かと思われたタイムアップ寸前、浅野の仕掛けた大外刈で両者もつれたところ、浅野が抱え上げながら青木を放り上げようとした瞬間、青木が体をかわせば、勢いのついた浅野は攻守変わって背中を着く。これが有効となりブザーが鳴る。

　互角の戦いを続けた浅野、一瞬の攻防に後れをとり連覇を逸す。青木は嬉しい初優勝。